県内地域史研究会紹介（九）

大分県石造美術研究会

①会　　名　大分県石造美術研究会
②事務局所在地　大分市南太平寺五組の一
③発足年月日　昭和五六年五月一〇日
④会　長　名　軸丸　勇（初代会長　入江英親）
⑤会　員　数　一八八名
⑥会誌名・年発行回数
『二豊の石造美術』年一回
「石造美術通信」年二五～六回
⑦最近号の主な目次

【第一五号】「石造文化財の保存に思う」古賀文敏、「大野郡野津町八里合名塚宝塔の調査」芳山泰生ほか、「安岐町の庚申塔群と塚」堀内宣士、「六地蔵塔～多仏塔～」軸丸勇、「随求塔を求めて」堀内宣士。

【第一六号】「日本の石工史・1」段上達雄、「石造美術三題」軸丸勇、「雪舟庭園あれこれ」藤澤公博、「大野郡野津町八里合名塚宝塔の調査」村上久和ほか、「宇佐市の石造美術」入学正敏、「無くなった北朝の板碑」諸富道則、「桧原山正平寺の梵字鳥居」高島直人、「役行者」川野孝慶。

【第一七号】「文化財保存科学の立場から見たおおいたの石造美術～石造文化財の基礎調査に寄せて～」古賀文敏、「石造文化財の基礎調査を終わって」山田拓伸、「東国東郡内石造文化財劣化の現状」永松郁朗、「佐賀龍造寺・鍋島の墓地をみて」軸丸勇、「石造アーチ橋の構造とその見方」岡崎文雄、「わたしの好きな石造美術品」衛藤忠義、「日田地方の石造美術」内恵克彦、「酒樽型・盃伏供養塔～矢田宗閑、宗智の酒塚～」後藤武夫。

【第一八号】「重要文化財九重塔」内藤克巳、「私の好きな石造美術品」泉一徳、「庚申塔入門～その歴史と見方～」小林幸弘、「見つかった国東塔」諸富道則、「庚申塔の造立年の考察」入学正敏。『二豊の石造美術』バックナンバーの主要目次。会員名簿。

《注》第一七号からはジャンル別の「石造美術品入門」（第一七号の岡崎

文雄さんの石造アーチ橋、第一八号の小林幸弘さんの庚申塔に続いて、板碑入門、宝塔入門、五輪塔入門などを予定）及び短編の「わたしの好きな石造美術品」を連載している。

⑧ 活動状況

「大分県は石造美術の宝庫」といわれているが、その石造美術品を一緒に「見る・聞く・学ぶ・守る」ことを念願して誕生した会である。会員は県内のみでなく県外に及び、普通会員の他に賛助会員もお願いしている。

機関誌『二豊の石造美術』は、毎年一号以上の発行を目標としているが、現在一八号まで刊行済。この他、数年前からは会員への情報紙として「石造美術通信」を発行し、例会の案内、終了後の報告、石造美術品の鑑賞に必要ないろいろな情報、会員の動向、その他のことについて、月一～二号から三号を発行しているところである。

例会（現地学習会）は奇数月に開催。その内一回は原則として県外研修を計画。最終回の例会は大分市内をブロック別に年次計画で巡検している。今年度は五月に朝地町で開催したが、続いて七月には宇佐市、九月には国見町（国民文化祭に協賛して一〇月一四～一五日に変更）、一一月には山口県の瀬戸内地域、一月には玖珠町、三月の最終回は大分市の南大分地域での開催が予定されている。いずれの場合も大分駅前を八時二〇分に貸切バスで出発（そのため予約が必要、毎回会員以外も参加している）。

この他、不定期に講演会を開催。最近では『大分の石造美術』の著者としても高名な望月友善先生（大阪府の高槻市在住）をお招きして、別府市で公開講演会を開催した。

一方、啓発事業にも活用するため石造美術の絵葉書を作成している。第一輯国東塔絵葉書　①、第二輯　国東塔絵葉書②、第三輯　二豊の層塔①で、各輯とも解説と説明図が付いていて好評。いずれも送料共五〇〇円で配布しているものである。

この一月と六月には、県臼杵土木事務所に対して「歴史的景観保全地域での「石垣」等の土木事業について」要望書等を提出した。臼杵石仏の古園石仏の真下の、西深田川の改良工事で、石仏を取り巻く環境は一変しつつあるが、特に平成九年度の事業には多くの問題があり、そのため歴史的景観の保全についての配慮を強く要望すると共に、会員多数の参加を得て臨時の現地学習会も開催した。

（後藤正二）